

由利地域 果樹産地構造改革計画

美味しいわい化りんごの里・由利

由利地域の果樹農業は、りんごを中心として産地が維持されてきました。

しかし、近年従事者の高齢化や後継者不足により、生産農家数、栽培面積が共に減少してきています。また、消費者ニーズも変化により多種多様な果物が求められ、更なる安全性や高品質化への取組、産地間競争の激化など、今までと同じ生産・販売方法では、将来的に産地の維持が困難になると考えられます。

このような課題に対応し、由利地域の果樹農業を維持・発展していくため、平成19年1月に秋田しんせい農業協同組合、秋田しんせい農業協同組合りんご部会、由利本荘市、由利本荘市農業委員会、秋田県農業共済組合、秋田県由利地域振興局を構成員とした由利地域果樹産地協議会を設立し、由利地域の果樹生産者の合意の下、この果樹産地構造改革計画を策定しました。

本計画では、これからの時代にあった、活力のある果樹産地を作り上げていくために必要な、地域の核となる生産者、園地、品種、さらには販売戦略などを定めています。

由利地域果樹産地協議会

令和3年 3月 1日

目 次

1	はじめに	1
(1)	目標年次（10年後）	1
2	産地の合意体制	
(1)	構成	1
(2)	産地の範囲	2
(3)	対象農家	2
(4)	その他	
	ア 進捗状況の確認および次期計画の策定	2
	イ 次期計画の策定	2
3	目指すべき産地の姿	
(1)	目指すべき産地の理念	2
(2)	人材・園地戦略に関する事項	
	ア 担い手の考え方	2
	イ 担い手の数の目標	2
	ウ 担い手の育成・確保に向けた取組	3
	エ 担い手への園地集積・集約化、円滑な経営継承に 向けた取組	3
	オ 雇用労働力の確保に向けた取組	4
(3)	流通・販売戦略に関する事項	
	ア 消費者・実需者のニーズに応じた果実を供給するための取組	4
	イ 多様な販売ルートの確保や新たな市場の開拓に向けた取組	4
	ウ 流通の合理化に向けた取組	4
(4)	生産戦略に関する事項	
	ア 生産を振興する品目・品種と生産目標、計画	4
	《りんご》	4
	《ぶどう》	6
	《日本なし》	6
	《特産果樹（ブルーベリー・すもも・おうとう・もも）》	7

イ	労働生産性の向上に向けた取組	・ ・ ・ ・ ・	8
ウ	生産資材の安定確保に向けた取組	・ ・ ・ ・ ・	8
エ	今後導入すべき新技術	・ ・ ・ ・ ・	8
オ	加工・業務用果実の安定生産に向けた取組	・ ・ ・ ・ ・	8
(5)	輸出戦略に関する事項	・ ・ ・ ・ ・	8
ア	輸出に関する基本的な考え方	・ ・ ・ ・ ・	8
イ	輸出促進に向けた取組	・ ・ ・ ・ ・	8
(6)	自然災害等のリスクへの対応に関する事項	・ ・ ・ ・ ・	8
ア	産地において特に対応すべきリスクとその対応方針	・ ・	8
イ	農業保険法に基づく収入保険や果樹共済といった セーフティネットへの加入促進に関する方針	・ ・ ・ ・ ・	9

1 はじめに

由利地域は秋田県の南西に位置し、日本海沿岸部から内陸高地まで、多くの変化に富んだ自然に囲まれた地域であり、沿岸部は少雪地帯、内陸部は多雪地帯である。

由利地域の果樹は、栽培面積の大きい順にりんご、ブルーベリー、すもも、もも、日本なし、ぶどう等であり、その中でりんごの栽培面積が特に大きくなっている。

主な果樹の栽培地域については、りんごは西目地区と鳥海地区、ブルーベリーは主に本荘地区の内陸部、すもも（プラム）は岩城地区、ももは鳥海地区、なしは大内地区、その他ぶどう等は主に矢島地区、西目地区において栽培されているが、耕地に占める水田の比率が高いため、水稲との複合経営が多い。

尚、由利地域におけるりんごのわい化栽培の導入は、昭和５０年代から積極的になされており、わい化栽培率は約９０％と県内でもきわめて高いのが特徴である。

販売について、主力品のりんごやその他果実は、系統出荷は少なく、直売所等を含めた消費者への直接販売や加工用としての販売が主体である。

近年、国内での果実消費量の減少が続き、販売価格の低迷や経営費の高騰など取り巻く環境は厳しさを増している。

（１） 目標年次（１０年後）

この計画では令和３年３月末を現状として、目指すべき産地の姿（１０年後）を念頭に、３年後を中間年（令和６年３月末）、５年後を終了年（令和８年３月末）とする。

１０年後を見据えて、りんごを基幹樹種として、ぶどう、日本なし、ブルーベリー、すもも、もも、おうとう等を複合的に進め、多種多様な果樹経営の維持と発展を目指す。

2 産地の合意体制

（１） 構 成

果樹の振興の効果的な取り組みを進めるため、平成１９年１月に農業者や関係機関の職員で構成する「由利地域果樹産地協議会」を設置し、合意形成を図っている。

由利地域果樹産地協議会構成員

会 長	由利本荘市 農林水産部 農業振興課長
副会長	秋田しんせい農業協同組合 園芸販売課長
副会長	秋田しんせい農業協同組合 りんご部会 会長
監 事	由利本荘市 農業委員会事務局
監 事	秋田県農業共済組合 由利支所
委 員	秋田県由利地域振興局 農林部
委 員	秋田県農地中間管理機構 (委託先：由利本荘市 農林水産部 農業振興課)

(2) 産地の範囲

由利本荘市

(3) 対象農家

由利本荘市全域の果樹栽培農家

(4) その他

ア 進捗状況の確認および次期計画の策定

産地計画は令和3年度から令和7年度までの5ヵ年計画とし、随時、進捗状況を確認する。その際、必要に応じて産地計画を修正する。

イ 次期計画の策定

令和7年度に5ヵ年の次期計画を策定する。

3 目指すべき産地の姿

(1) 目指すべき産地の理念と方向性

- ・安心・安全を主とし、少量多品種と高品質化により、消費者に美味しさと喜びを提供できる産地
- ・りんご産地の現状維持に加え、若手を中心に取り組みが増加傾向にあるぶどう、日本なしの産地化

(2) 人材戦略に関する事項

ア 担い手の考え方

- ①認定農業者で、果樹栽培が主体の農家
- ②農業所得が主で、約50a以上の果樹を栽培し、主に従事している60代までのものが存在する農家
- ③新規参入者
- ④農業生産法人へ発展していくことが見込まれる生産者組織

イ 担い手の数の目標

主業的農家が約半数を占めているりんご農家について、ここでは記載する。現状では果樹農家の増加は見込めず、産地構成員の後継者育成や由利本荘市外からの受け入れ体制を強化する必要がある。また、由利本荘市果樹若手農業者組織を対象とした定期的な研修(りんごの小学校等)や、現地視察、研修会開催などを積極的に支援し、担い手の育成に努める。

担い手の種類	該当数、担い手率		
	2 年(策定時)	5 年(中間年)	7 年(最終年)
担い手①（認定農業者等）	17 戸（ 34.7 ）％	18 戸（ 36.7 ）％	15 戸（ 33.3 ）％
担い手②（①以外のりんご主業農家等）	17 戸（ 34.7 ）％	16 戸（ 32.7 ）％	16 戸（ 35.6 ）％
担い手③（新規参入者等）	0 戸（ 0.0 ）％	0 戸（ 0.0 ）％	0 戸（ 0.0 ）％
担い手④（生産者組織等）	0 戸（ 0.0 ）％	0 戸（ 0.0 ）％	0 戸（ 0.0 ）％
担い手以外の産地構成員	15 戸（ 30.6 ）％	15 戸（ 30.6 ）％	14 戸（ 31.1 ）％
合 計	49 戸(100.0)％	49 戸(100.0)％	45 戸(100.0)％

※ ①～④については、ア 担い手の考え方に準ずる。

ウ 担い手の育成・確保に向けた取組

由利本荘市果樹若手農業者組織を対象とした定期的な研修（りんごの小学校等）や、現地視察、研修会開催などを積極的に支援し、担い手の育成・確保に努める。

また、日本なしやぶどうの盛土式根圏制御栽培法やぶどう一文字短梢栽培など、管理作業の大部分がマニュアル化され、省力・軽労化が可能な生産方式の導入により、新規参入者の確保と経営安定を目指す。

エ 担い手への園地集積・集約化、円滑な経営継承に向けた取組

担い手への園地集積・集約化を進めるため、廃園・放任園になり得る園地の情報収集と経営継承のマッチングを行い、法人を含めた担い手への円滑な経営継承を進める。

りんご園地については、果樹の老齢化が進んでいるため、優良品種への積極的な補植改植（移動改植を含む）と新植を進めて、園地の若返り、収量アップ、果実の品質向上を推進する。

果樹の新規植栽、規模拡大を行う果樹農家については、農地中間管理機構の活用、農業委員会での賃貸借の斡旋等を行い、園地の効率的な利用と流動化を促進する。

オ 労働雇用力の確保に向けた取組

高齢化や生産者の減少により、労働雇用力の確保が困難となってきた。このため、ぶどうの一字短梢栽培や、盛土式根圏制御栽培など省力樹形を導入し、作業の単純化と早期多収を図ることや、あらゆる作業の自動化が期待できるスマート農業技術の実装を支援する。

労働力の確保について、繁忙期は近隣シニア世代の労働力に頼っている状況だが、今後更なる労働力の不足が懸念されることから、ＪＡの無料職業紹介所やシルバー人材センターなどと連携し、労働力の確保を図っていく。

（３）流通・販売戦略に関する事項

ア 消費者・実需者のニーズに応じた果実を供給するための取組

由利地域は小規模産地であり、大規模産地の量と販売額では勝ち目がないため、固定客を確保し、少量でも高単価かつ安定した価格で販売することが重要になる。「高品質なもの、必要なものを、必要な量で」販売するための販売戦略とマーケティング調査が必要になる。

イ 多様な販売ルートの確保や新たな市場の開拓に向けた取組

果実の販売は生産者の個人販売が主体であり、個人客への注文販売や、直売所での販売が行われている。都市圏のフェアを活用して認知度を上げて注文を受けるチャンネルを増やすことや、市まるごと売り込み課を通じた首都圏の高級スーパーや小売店への直接販売ルートの開拓を進めていく。

ウ 流通の合理化に向けた取組

戦略的な出荷販売を実行するための、スマートフレッシュ処理を活用した長期貯蔵技術の普及に合わせ、冷蔵・貯蔵施設等の整備を支援する。

（４）生産戦略に関する事項

ア 生産を振興する品目・品種と生産目標、計画

《りんご》

現在栽培されている園地は、樹園地の傾斜度による分類では大部分が平坦地または緩傾斜地で、作業効率・生産効率は高い。昭和５０年代に植えられた樹が多く、生産性の低下が見られる。現在の園地が今後も維持される園地であるが、作業効率や生産効率を考え、急傾斜地や小規模団地などの条件不利地は将来的に廃園される園地としてあげられる。

	2 年（策定）	5 年（中間）	7 年（最終）
担い手の園地面積	3 6 ha	3 4 ha	3 3 ha

現在のりんごの品種構成は晩生種の「ふじ」が主体で、その比率は55%程度となる。晩生種に偏重した品種構成は、管理作業の集中化、風害、凍霜害等の気象災害による生産性への影響が増大する懸念があるため、中生種の比率を向上させる必要がある。

このため、10年後の品種構成割合の目標は、晩生種（中晩生種含む）65%、中生種30%、早生種5%とするが、段階的に割合を変えていく。

導入拡大するりんごの品種は、秋田オリジナル品種、優良着色系つがる品種、早生枝変わりふじ、優良着色系ふじ品種、その他の優良品種を主体とする。

区 分	品 種	品 種 構 成 割 合（％）		
		令和2年	令和5年(中間年)	令和7年（最終年）
早生種	つがる（着色系含む）	9	9	7
	秋田紅ほっぺ			
	その他			
中生種	千 秋	22	22	25
	やたか			
	その他			
晩生種	秋田紅あかり ふ じ 他	69	69	68
	計	100	100	100

【導入拡大品種（補植改植新植する対象品目・品種）】

※秋田オリジナル品種…「秋田紅ほっぺ」、「ゆめあかり」、「秋しずく」、「秋田紅あかり」
「秋田19号」

※着色系つがる …「つがる姫」、「ひらかつがる」

※着色系ふじ …「秋ふ47系統（みしまふじ系統）」、「紅秋光」、「コスモふじ」、
「宮美ふじ」

※早生枝変わりふじ …「やたか」、「昂林」、「ひろさきふじ」

※黄色系品種 …「シナノゴールド」、「トキ」、「ぐんま名月」、「もりのかがやき」、
「はるか」、「青林」

※その他優良品種 …「シナノスイート」、「ニュージョナゴールド」、「秋陽」、
「ファーストレディ」、「ルビースイート」、「ローズパール」

《ぶどう》

ぶどう（ぶどう垣根栽培を含む）について、現在栽培面積が拡大しており、新たな加工用品種の導入、新技術の盛土式根圏制御栽培など、新規導入の意向も確認されていることから、今後も栽培面積の拡大が見込まれる。消費者ニーズが高まっているシャインマスカットなど無核大粒種を中心に、ワイン用品種など多種多様に振興を進める

樹 種	栽 培 面 積 (ha)		
	令和2年	令和5年(中間年)	令和7年(最終年)
ぶどう	2. 2	4. 2	4. 9

【導入拡大品種（補植改植新植する対象品目・品種）】

ぶどう … 大粒種「巨峰」、「ピオーネ」、「シャインマスカット」、「クイーンニーナ」
 中粒種「キャンベル・アーリー」、「スチューベン」、「ナイヤガラ」
 加工用品種（赤）「メルロー」、「ピノ・ノワール」、「ツヴァイゲルトレーベ」、「ヤマソービニオン」、「マスカット・ベリーA」、「カルベネフラン」、「富士の夢」、「テンプラニーリョ」、「ガメイ」、「シラー」、「アルモノワール」
 加工用品種（白）「シャルドネ」、「ソーヴィニオン・ブラン」、「甲州」
 「リースリング」、「ミュラートウルガウ」、「ケルナー」、「北天の雫」
 「アルバリーニョ」、「ピノグリ」、「セミヨン」、「ゲヴルツトラミナー」

《日本なし》

日本なしは、盛土式根圏制御栽培など省力的な栽培方式により規模拡大を志向する経営体が育成されており、今後も省力樹形を用いた栽培面積拡大が見込まれる。本市では、秋田オリジナル品種の秋泉や県の主力品種である幸水を中心とした日本なしの産地化・特産品化を進めるため、日本なしを導入拡大品種と位置づける。

樹 種	栽 培 面 積 (ha)		
	令和2年	令和5年(中間年)	令和7年(最終年)
日本なし	0. 8	0. 9	0. 9

【導入拡大品種（補植改植新植する対象品目・品種）】

日本なし … 「秋泉」、「幸水」、「豊水」、「あきづき」、「かほり」、「南水」

《特産果樹（ブルーベリー、すもも、おうとう、もも（ネクタリン含む））》

ブルーベリーは、転作田を活用した栽培が盛んなため、振興樹種として位置づける。品種構成は様々な樹種が栽培されているが、寒冷地向きのハイブッシュ系統の振興を今後も継続する。

すももについては、本市の振興作物の一つであり、岩城地区を中心に栽培が行われているが、果樹の老齢化による品質低下を招いている。今後の規模拡大は見込めないが、本市特産のプラムワインの原料でもあるため、改植等も含めて、果実の品質向上と収量増を進めて、園地を維持していく。

おうとうは、収益性の高い樹種として栽培面積が僅かながら拡大しつつあり、新規で導入の意向も確認されていることから、今後も栽培面積の拡大が見込まれる。消費者への直接販売や直売所を主な販路として、おうとうの振興を図る。

もも（ネクタリン含む）について、栽培面積は大きくないものの、面積は僅かながら拡大しつつある。今後、消費者への直接販売や直売所を主な販路として、現在の栽培面積を維持し、園地を管理していく。

樹 種	栽 培 面 積 (ha)		
	令和2年	令和5年(中間年)	令和7年(最終年)
ブルーベリー	3. 4	3. 4	3. 5
すもも	2. 4	2. 4	2. 4
おうとう	0. 3	0. 3	0. 3
もも	1. 2	1. 2	1. 2

【導入拡大品種（補植改植新植する対象品目・品種）】

- ブルーベリー … 「アーリーブルー」、「スパータン」、「ブルーレイ」、「ブルークロップ」、「バークレイ」、「ダロウ」、「レイトブルー」、「エリオット」、「デューク」、「ハリソン」、「シエラ」、「チョップブルー」、「デニースブルー」、「ネルソン」、「チャンドラー」、「ブルギッタブルー」、「エリザベス」、「ブルータ」、「パトリオット」、「ノースランド」、「ノースブルー」
- すもも … 「ソルダム」、「大石早生」
- おうとう … 「紅秀峰」、「佐藤錦」
- もも … 「あかつき」、「川中島白桃」、「ネクタリン」（ファンタジア、スイートビーナス）、「あまとう2号」、「紅錦香」、「おどろき」、「なつおとめ」、「黄金桃」

イ 労働生産性の向上に向けた取組

生産力の低下した園地の新植・改植を進め、園内道や栽培施設の整備・補強や、盛土式根圏制御栽培法、一文字短梢栽培などの省力・軽労化が可能な生産方式を導入することにより、作業の効率化や生産性の向上を図っていく。

ウ 生産資材の安定確保に向けた取組

必要資材の安定確保に向け、JA 秋田しんせい等の資材取り扱い者との各種情報共有を図る。

エ 今後導入すべき新技術

〔りんご〕優良着色系品種の導入、耐雪型樹形、ジョイント栽培、超密植わい化栽培

〔日本なし〕盛土式根圏制御栽培、ジョイント栽培等

〔ぶどう〕盛土式根圏制御栽培、垣根栽培、一文字仕立て栽培等

〔特産果樹〕おうとう垣根栽培等

オ 加工・業務用果実の安定生産に向けた取組

秋田 19 号など、多様な用途で活用のある品種の安定生産技術の確立を図る。

(5) 輸出戦略に関する事項

ア 輸出に関する基本的な考え方

面積が拡大している秋田オリジナル品種を中心に、輸入規制条件をクリアできる生産出荷体制を確立させるため、選果こん包施設の登録や GAP 取得の推進など、生産者への支援を行っていく。

イ 輸出促進に向けた取組

由利地域は輸出の実績がないため、県の輸出拡大に向けた取り組みに産地として協力していく。

(6) 自然災害等のリスクへの対応に関する事項

ア 産地において特に対応すべきリスクとその対応方針

管内の園地の多くは丘陵部および山間地に位置している。園内道は未舗装の箇所もあり、特に傾斜のある園内道においては、降雨や降雪による路面状況の悪化が作業上の安全性や省力化、生産管理に影響を及ぼしている。また、暴風や暴風雪などの風害により、倒木・枝折

れ・落果の被害を受けやすい地域でもある。このことから、（１） 優良品種への転換等を前提に、生産効率の改善に向けた園内道の整備や気象災害の対策としての防風網等の設置を行い、生産基盤の改善を推進する。

イ 農業保険法に基づく収入保険や果樹共済といったセーフティネットへの加入促進に関する方針

秋田県農業共済組合由利支所管内の令和２年度の収入保険・果樹共済加入率は、りんごでは８４％（加入面積／有資格面積）で、全県平均加入率の５１％を上回っている。

近年は、地球規模の温暖化が進行し、気象災害の発生頻度が高まっているため、今後も果樹共済の加入促進を図り、共済加入率令和５年８６％、令和７年９０％を目標に、更なる加入率の向上に努める。